

滝川高校SSH通信

滝高生による特別号①

SSH天売島研修1日目 6月8日(土)

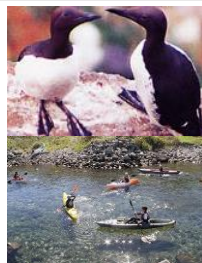
報告者：上野柚稀（2F）、秋場葵（1F）

「人と自然環境の共生をテーマに課題解決に挑戦するフィールド調査巡検」

天売島研修～森と空と海と人、天売島で自然のつながりを実感し、これからの地球のことを考えよう～

〔研修の目的〕

天売島は、世界でも有数な海鳥繁殖地である。人と海鳥の生活が、共存している稀有な環境を有しているこの島で、海鳥の繁殖行動の観察と、森林生態系と海洋生態系の見事な融合をみせる多様性豊かな自然環境を観察する。この豊かな自然環境を貴重な島の財産として保全しながら、資源として活用する地域創生について学ぶ。



〔1日目の研修内容〕

- 研修① 海鳥の生態と環境保全の取り組み
- 研修② 天売の自然 海鳥の繁殖地と島の地形の観察
- 研修③ ウトウ帰巣観察ツアー
- 研修④ ナイトキャンプ（釣り体験）
- 研修⑤ 研修振り返り座談会

海鳥の生態と環境保全の取り組みについて

1日目の最初は、羽幌町にある「北海道海鳥センター」に行きました。ここは日本で唯一の海鳥専門施設であり、天売・焼尻島を含む羽幌地域の海鳥について学ぶことができる施設です。

天売島で主に繁殖する海鳥は8種、そのうち4種が絶滅危惧種に指定されています。特にウミスズメ、ケイマフリ、ウトウ、ウミガラスは、繁殖が国内唯一、もしくは世界最大の繁殖地ということもあり、毎年多くの観光客が訪れます。こんなに多くの鳥が集まるのには、地形的な理由が大きいそうです。これらの海鳥は、潜って餌をとるため、身体が陸での活動に適していなく、外敵に狙われにく

い断崖で営巣します。この島の北東側は、彼らが好む断崖絶壁であり、人が住める平地は、その真逆側にあります。海鳥と人間の生活の棲み分けがうまくなされているのです。



図2 崖の模型（オロロンチョウなど海鳥の模型が展示）



図1 北海道海鳥センター外観

館内にはその崖を再現した大きな模型があり、近くでは見られない海鳥たちの様子をうかがい知ることができました。また、貴重な生態系を守るための環境保護の取り組みについての展示もありました。デコイ（鳥の模型）と鳴き声を使った繁殖促進の成功事例や、外敵であるノラネコを保護し、飼い猫にする「天売猫プロジェクト」など、ほかの地域でも参考にできそうなことを学ぶことができました。

〔天売の自然～繁殖地と島の地形の観察〕

羽幌を出発し天売島に到着した後は、赤岩展望台などをめぐるガイド・ウォークに行きました。先程海鳥センターで学んだ海鳥を守り育てる日本海に面した断崖を生で見ることができます。海鳥だけでなく、ハヤブサやノゴマ、またエソニュウなど北海道の夏を感じる生き物をたくさん観察できました。高台近くの地面には、たくさんの穴が開いています。これは、天売島を世界最大の繁殖地とするウトウの巣穴で、入り口から細長く奥に続いています。これが道路を補修工事しなければならないほどたくさんあるのです。この巣穴一つ一つにウトウが帰ってくるのだと思うと、夜の帰巣観察ツアーがとても楽しみになりました！！



図3 ユトウの巣穴

約40万個の穴があり、メスが抱卵している。夕暮れになると、約40万羽のオス鳥たちが帰巣してくる様子は圧巻であった。

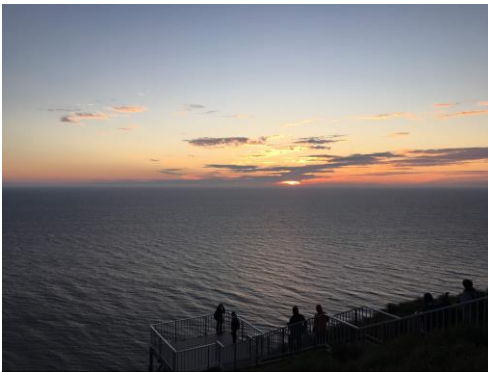


図6 赤岩展望台

約40万個羽のオス鳥たちが帰巣する前



図4 イカナゴをたくさん加えて帰巣してきたオスのウトウ



図5

オロロン2にて、天売島に到着（帰りは高速船にて）。

〔ウトウ帰巣観察ツアー〕

少し肌寒くなってきた 19:00 ごろ、ゲストハウスを出発しウトウが一斉に帰巣する様子を観察しに再び赤岩展望台へ。多くの観光客がこの展望台を訪れていました。はじめのうちはよく目を凝らさないといけないほどまばらでしたが、日没後、暗くなるにつれてどんどんとその数は増していきました。

ウトウは飛ぶのがあまりうまくないため、ボスっという音を立てながら落下するように草むらに着地し、巣穴へと帰ります。この赤岩展望台で見ることができるウトウはなんと80万羽。上空を飛ぶたくさんのウトウと、だんだんと沈んでいく美しい夕日は、とても絶景です。



図7

初日の夕食は、火お越しから始まり、シンギスカンを楽しみました！

〔ナイトキャンプ〕

日も暮れて真っ暗になった 20:00 ごろには、ゲストハウスの近くの海辺でナイトキャンプ(釣り体験)をしました。初めて釣りを経験する生徒が多く、指導をしてくださる担当の方に色々とお助けいただきながら楽しみました。中には釣り竿の扱い方の説明を受けただけで、たくさんの魚を釣り上げる生徒も！私も今回初めて釣りを体験しましたが、活きのいい魚や、少し大きな魚など3匹～4匹ほど釣ることができました！！

今回は食べることが目的で釣りをしていたわけではなく、釣ることが目的だったので、釣った魚は海に放しました(キャッチ&リリース)。天売島は海がきれいで魚がたくさん獲れるので、漁業がとても盛んです。早朝には船を動かしている島民の方もいました。以前はニシン漁で栄えていたそうですよ。

時間はあっという間に過ぎ、ゲストハウスに戻って一日の振り返りをしてから就寝準備。眠気が来るまでの間、談笑する者もいれば、お風呂でリサイタルを開いて、一時間大熱唱する人もいて過ごし方はとても様々で個性がありました。



図8 お世話になったゲストハウス天売礼前にて

町おこし協力隊の宇佐美さんにたいへんお世話になりました。

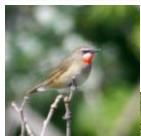


アイナメ、ガヤ、クロソイ、エソメバルなど、多くの魚が釣れました。

図9 夜の天売漁港にて

滝川高校SSH通信

滝高生による特別号②



ノゴマ



エソ
カンソウ

SSH天売島研修2日目

6月9日(日)

報告者：高橋賢新（1F）

〔2日目の研修内容〕

- 研修⑥ 海岸清掃 漂着物・プラスチック調査
- 研修⑦ シーカヤックツアー海鳥目線で島を眺めよう
- 研修⑧ 天売島内フットパス（天売高校生によるガイド）
- 研修⑨ 天売高校生と交流



島内にあるウミネコのコロニー

～海岸清掃～

天売島の海岸に流されてきたゴミを拾い、海岸清掃を行いました。その際、天売の生物が誤飲してしまい生物濃縮の原因となりうるマイクロプラスチックの調査も行いました。海外からの漂着物が多くみられ、中にはソファーなどの粗大ゴミも見受けられました。



図1 海岸清掃の様子



図2 漂着物を前に長澤先生より説明を受ける滝高生



図3 巨大ソファーも



図4 海岸清掃で集まった漂着物
浮きやソファーその他にペットボトルなどのプラスチック製の容器が多くありました。

～シーカヤックツアー～

島の人に先導してもらいながら、シーカヤックで天売島近海を散策しました。天売島の海は、大変きれいで底が見えるほど透明でした。海が最もきれいな時の透過性は、沖縄の海をも超えるほどだそうです。



図5 シーカヤックツアーの様子



図6 シーカヤックの様子 真ん中の写真には焼尻島が写っている。海の水が透けているように透明であった。

～フットパス～

天売島内の森を散策しました。島内の木はほとんどがきれいに並べられています。これは一度大幅に減少した自然を島の方々が復活させようと植えたものです。まさ、森を拡大するプロジェクトは続いているそうで、島の小学生などもその活動に携わっているそうです。



図7 フットパスの様子

島内の森には、木の屑などを使用した道が設けられていて、そこを歩いて自然を観察してきました。



図8 天売島内から見える、海と焼尻島

島内の森から見えた景色です。この他にもたくさんの場所でとてもきれいな景色を眺めることができました。



図9 天売高校前にて集合写真

運動会や学校祭は、島民全体の行事となっており、地域住民が一体となって行われる。特に運動会は、高校だけでなく島にある幼稚園、小・中学校、そして島にいる社会人の参加で成り立っている。前日が運動会であった。

～天売高校生と交流～

天売高校を訪問し、その生徒と交流をしてきました。天売高校は定時制であるため、生徒のほとんどは、仕事をしているそうです。中には野鳥観察のツアーガイドをしている方や、漁業にかかわっている方もいて、天売ならではの職に高校生の頃からつくことは、地域活性に繋がる素晴らしいことだと感じました。